

令和7年度

## 入田中学校 「学力向上実行プラン」

### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 朝の読書や委員会活動による読書活動の充実
- ICTを活用し、少人数学習の強みを生かしたきめ細やかな学習指導の実践
- 家庭学習の手引きを用い、保護者との連携による家庭学習の充実

### 【各校の取組状況の把握について】

◎次の（1）～（3）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

#### （1）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習に取り組むことができ、基礎的な内容をほぼ理解している生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、情報量が多い問題を、身についた知識と関連付けたりすることに課題がある。	基礎的・基本的な内容の習得に意欲的に取り組み、向上心を持って学習に取り組むことができる。 読書活動により語彙数が増える。 習得した知識を、既習の知識と関連付けることができる。	月1回の図書委員会の活動(ブックトーク等)を通じ、読書活動の充実を図る。 テスト前に補充学習(チャレンジタイム)を行うことで、基礎的な内容の定着を図る。 相互参観授業を通して、指導力の向上を図る。 小テストやミライシードなどを活用し、分かる喜びを実感させる。		学習図書委員の月1回のブックトーク、週2回の図書室開放、毎朝の読書の時間を設けることで、読書の習慣が身についている。 テスト前の補充学習(チャレンジタイム)などによる基礎的・基本的な知識・技能が定着し、定期テストの5教科平均が70点以上が67%達成できた。 ICTを有効に活用できた。	相互参観授業の期間を設けるなどして、授業力向上を目指す。 生徒のニーズに合った指導・支援を教職員間で共通理解を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着をさらに強化していきたい。

#### （2）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いなどの活動では友達の意見を聞き、素直に自分にいかそうとすることができる。また、自分の意見や考えも発言することができる。 ●自分の考えがうまく伝わるよう文章や話の組み立てなどを工夫して表現することに課題がある。	目的に応じて、情報を整理しながらまとめ、論理的に伝えることができる。 各教科で学習したことを、実生活でも役立てようとする姿を見ることができる。 人の意見を取り入れ自分の考えを深めることができる。	各教科において、文章を書く機会を増やし、条件にあった表現力を身につけさせる。 学習形態(グループ、ペア等)を工夫し、論理的に考えるような、話し合いや発表の場面を設ける。 授業の中に話し合いや教え合いの場面を設け、必要に応じてタブレットを使いながら、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりする機会をつくる。 生徒自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合う学習活動を取り入れる。		各教科で学習形態を工夫し、対話する機会を設けた。 タブレットを利用し、文章で自分の考えを表現したり、意見交換や発表をしたりした。 教科によっては積極的に教え合う場面を設けることができた。	定期テストで思考力・表現力を培うような問題を作成し、生徒により力をつけさせるようにする。 生徒自ら課題を設定する活動を取り入れ、より主体的に学習に取り組めるようにする。

#### （3）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に授業に取り組み、疑問に思ったことに対し、積極的に発言や質問をすることができる。 ●家庭学習の習慣や、学習内容の定着に課題がある生徒がいる。	生徒一人一人が課題や進路に向けて、自分の学習方法を確立し、計画的で自主的に家庭学習に取り組み、「家庭学習の習慣が身についている」と感じている生徒の割合が100%を目指す。 学ぶ喜び、分かる喜びを感じ、「学校の授業がわかる」と感じている生徒の割合が80%以上を目指す。	生徒が興味関心をもって学習に取り組むことができるよう発問や資料の提示など教材研究し、ICTを有効活用する。 学習委員会の活動により、家庭学習の充実を図る。 补充学習(チャレンジタイム)を行い、学習を支援する。 家庭学習の手引きを活用しながら、保護者との連携を図り、計画的な家庭学習につなげる。	家庭学習のがんばりを認める活動を行う。	家庭学習時間調査の結果、年度前半よりも後半の方が家庭学習時間が増えた。 学年の実態に応じて、家庭学習の成果を毎日提出させることで家庭学習の充実を図ることができた。 テスト前の補充学習(チャレンジタイム)の実施により、各教科の学習内容の定着を図ることができた。	家庭学習時間の増加、内容の充実に向けて、各教科で課題を細分化したり、家庭学習の意義を伝えるなどし、生徒の意識改革を行えるように工夫する。